

第84号 平成22年4月15日

# 体協いよいよ

発行：特定非営利活動法人 飯山市体育協会 / 〒389-2251 飯山市大字旭 4722 飯山市民体育館内 印刷：(有)足立印刷所

第20回 みゆき野卓球大会 ■卓球クラブ 森山直明

12月6日に第20回みゆき野卓球大会が市民体育館で開催されました。

みゆき野地域（飯山市、木島平村、野沢温泉村、栄村）とその隣接市町村の在住・在学・在勤者が覇権を競うこの大会は、毎年新潟県の妙高市、上越市などからも多くの選手の参加があります。

例えば戸狩小の選手と妙高市の小学生の真剣なラリー。これはみゆき野卓球大会ならではの一場面です。20回目の開催を迎えられたのも、体育協会や市のご支援のおかげであり、心から感謝しています。

私は県内各地の選手と交流していますが、彼らの話を聞くにつけ、飯山市は（人口は19市中19位でも）スポーツ行事への支援体制や体育施設の充実度ではかなり上位に入っていることを実感しています。以前、卓球の国体長野県成年男子の監督が市民体育館へ指導に来てくださいました際、「この床は素晴らしい。よく手入れが行き届いている。北信の体育館では一番」とおっしゃいました。「飯山で暮らせばスポー

ツを存分に楽しむことができ

る」。私はそう認識しています。現在飯山養護学校の教師として赴任し体協の仲間に加わっている女子選手がいます。彼女は高校時代から国体で活躍し日体大を卒業したばかりの現役バリバリの強豪で、指導を受ける中学生たちの目標にもなっています。

また、大手小売店の飯山店に転勤してきた青年も張り切って体協の練習や大会に参加しています。いざれ異動でこの地を去る彼らとどこか遠くの大会で再会した時、「飯山では素晴らしい体育館で多くの仲間と汗を流した。とくにみゆき野卓球大会では県境を越えた有意義な卓球交流ができた」などと振り返ってもらえるならば、飯山市体育協会の一員としてこの上なくうれしいこと。そんなことも思い描きながら、これからもずっとこの大会を開催していきたいと思えます。



## バンクーバーオリンピック

# 竹内 択選手 小境啓之コーチ 出場!!

写真提供 株式会社 Jicom



2月1日(月) 激励会

## 中学校バスケットボール交歓大会

バスケットボールクラブ / 武田 君義



今年で3回目となる交歓大会が2月20日に行われました。今年には新潟の中学校に加え、長野からも2校を招きました。寒い中が練り上げられました。戦いは機敏な動きでそれぞれのチームカラーを出した攻防に、各校の顧問の先生、応援に来ていただいた保護者の皆様から歓声が上がっていました。

ただ、この大会で市内3校のバスケットボール部の歴史に幕が閉じられることが少し淋しく思いました。3校のユニフォーム姿の選手達は、大

編・集・後・記

桜とともに、飯山にも遅い春がやってきました。四季の変化のように、私達の日常生活にも変化という花が舞っています。新しい目標・夢・希望が桜の花びらのように舞い、手を伸ばせばすぐにふれることが出来そうです。幸せの春は、貴方のすぐ近くにいます。心躍る春を、さあ、その手に掴まえに行きましょう。

変凛々しく、とても逞しいものでした。

城北、城南中学校バスケットボール部の新しい歴史の1ページ目を築く彼等の勇姿を今から期待してなりません。



2010 飯山市小学生ミニジャンプ大会

平成22年1月24日(日)、長峰ミニジャンプ台にて開催。前日にフリートレイニングが行われ、大会に1年生から6年生の13名が挑戦。

各学年優勝者

- 1年 大日方慎也(常盤小)
- 2年 鷲尾 麗慈(岡山小)
- 3年 和田 龍磨(泉台小)
- 4年 中原 光星(常盤小)
- 5年 岩崎 真哉(飯山小)
- 6年 大熊 隆雅(常盤小)



2010 飯山市アルペンスキー大会

平成22年2月7日(日)、参加者115名で戸狩温泉スキー場にて開催されました。時折小雪は降りましたが、コースのコンディションは最高でした。4歳から70歳を越えたスキーヤーまで、幅広い年齢層の参加者が優勝を目指して、懸命に滑っていました。

コースサイドでは、おじいさんとおばあさんが孫の応援に、先生とクラスメイトや職場の仲間たちが大勢集まり選手に大きな声援を送っていました。第21回オリンピック冬季競



つこの大会に挑んだ選手もいたのではないのでしょうか。

2010 市民スキーフェスティバル

飯山市スキークラブ 大日方純恵

2010市民スキーフェスティバルが、2月21日 長峰クロスカントリースキー会場で開催されました。

当日は朝から快晴! 絶好のスキー日和となり、約350人の参加者は笑い・真剣・緊張ありの中、一人一人が思いのスタイルでスキーを楽しみました。

午前はクロスカントリースキーとスペシヤルジャンプ競技の個人戦、午後にはリレー競技が行われ、その中でも150オリレーには大きな歓声と笑いがおこっていました。

このリレーには、普段は裏方の保護者のみなさん・学校の先生・コーチ、仕事仲間、スキー仲間などのさまざまなチームが参加されました。スタートでは緊張していた顔も、ゴールではすばらしい笑顔にかわり、「自分が主役」を楽しんでいるようでした。

またこのリレーの見所は、各チームの個性あふれる仮装にもありました。ここ数年中止となっていたせいか、長年大切にきたためきたきた新ネタ(?)を披露してくれたチーム



竹内択選手の出場に飯山は燃えました!!

竹内択後援会 宮崎 正

1月13日、どうなるのかと市民の皆さんが待ち望んだ竹内択選手の出場が決まりました。本人も出場出来るかどうか相当悩んでいたみたいですが、家族も一緒に喜びを爆発させていました。この日から我々の応援の準備に拍車がかかりました。まず後援会の結成です。準備会を立ち上げ、後援会長を市長にお願いをし、快諾をいただきました。

いた小境コーチのお父さんも感激の様子でした。さあ、いよいよ本番の応援です。スペシャルジャンプは2月14日、21日、団体は23日です。一番の問題は、当日、竹内選手が出場するかどうかでした。しかし、そんな心配も杞憂に終わりました。3試合全てジャンプを飛ばす事が出来ました。夜中の2時または3時感謝したいほど多くの方が応援に駆けつけてくれました。夜中に響く太鼓と「トーク」「トーク」の大声援。そんな大きな声援

は遥かかなたのバンクーバーまで届いたと思われれます。今から8年前も飯山は熱く燃えていました。ソルトレイクオリンピックに山田大起選手が同じくジャンプに出場して頑張っていました。今回の竹内選手で飯山からは長い歴史の中で、たった二人目のスペシヤルジャンプのオリンピック選手なのです。この事はとんでもなく、凄く、素晴らしい事なのです。最近ではスキー競技人口が減っている中、特にジャンプの競技人口は極端に少な

くなっています。今年の長野県のインターハイ予選のコンバインドとスペシヤルジャンプの選手は11人だけでした。当然、我が飯山市も今少なく小学生は2人、中学生はゼロです。竹内選手につづく、選手の育成が大きな課題なのです。今回の、この竹内選手の活躍を見て一人でも多くの子ども達が、ジャンプをやる気になってくれたら、本当に有難く感謝したい気持ちになりました。こんな素晴らしい感動を与えてくれるオリンピック。竹

内選手はソチオリンピック目指して更なるトレーニングを続けることでしょうか、次の世代に続く選手育成が地域に与えられた課題でもあると思います。ジャンプをするには素晴らしい環境にある、我が飯山市で世界を目指す選手の育成の後押しをしたいものです。

最初にポスターの作成。次に桃太郎旗のデザイン、そして、まず100本注文をして町内に立てることにしました。他には、日の丸の旗、壮行会のパンフレットの作成です。準備万端とのい、いよいよ2月1日、中央公民館で激励会です。今回は竹内選手とクロスカントリーのコーチとして参加をする小境啓之さん二人の激励会になりました。会場には300人の市民の皆様が集まり盛大な激励会になり竹内選手も代理で出席して頂



後援会の皆さんのよせ書き



激励会



テレビ(モニター)応援



2月28日(日) 報告会